

学んだことを人生や
社会に生かそうとする

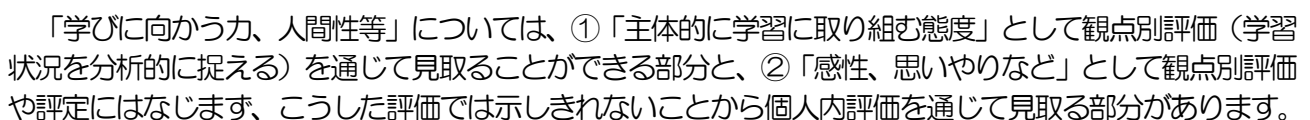
学びに向かう力、
人間性など

実際の社会や
生活で生きて働く
知識及び技能

未知の状況にも
対応できる
思考力、判断力、
表現力など

社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、
三つの力をバランスよく育みます。

- 各教科の評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして、観点別学習状況の評価の各観点として一人一人の学習状況を評価します。



観点別学習状況評価の各観点について

★「知識・技能」

学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。

具体的な評価方法としては、例えば、ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮して行うことが考えられます。また、生徒が文章による説明をしたり、各教科等の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことなども考えられます。

★「思考・判断・表現」

各教科の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力・判断力・表現力等を身に付けているかどうかを評価します。各教科等の中で課題や問題に向き合って解決したり、他者と協力しながら問題解決したりする等の学習場面を通じて、各教科等の特性に合わせて評価します。

具体的な評価方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられます。

★「主体的に学習に取り組む態度」

知識及び技能を習得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価します。

具体的な評価方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、生徒による自己評価や相互評価の状況を、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行います。

「観点別学習状況の評価」について

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」について、次の3段階（A・B・C）で評価します。

【観点別学習状況の評価】		評価の基準
・十分満足できると判断されるもの	A	80%以上の達成値である場合
・おおむね満足できると判断されるもの	B	50%以上 80%未満の達成値である場合
・一層努力を要すると判断されるもの	C	50%未満の達成値である場合

評価について

それぞれの観点別学習状況の評価の結果を総合的に捉えるもの。次の5段階（5・4・3・2・1）で評価します。

【評価】		評価の基準
・特に高い程度のもの	5	90%以上の達成値である場合
・十分満足できるもの	4	80%以上 90%未満の達成値である場合
・おおむね満足できるもの	3	50%以上 80%未満の達成値である場合
・努力を要するもの	2	20%以上 50%未満の達成値である場合
・いっそう努力を要するもの	1	20%未満の達成値である場合